

言語学研究室 大学院夏季入試説明会 周知事項

入試科目

専門科目では言語学の基礎的な知識を問う問題、言語データの分析力を見る問題を出します。

過去の出題では、音声学の基礎知識を問う問題、言語データの分析（形態分析や比較再建など）、記述問題、用語説明が例年出題されています。

直近の過去問は研究室ホームページに掲載されており、文学部複写センターでも販売されています。

最近数年間の合格者数

2人から7人くらいまで、その年によって大きく変わります。

教員紹介

言語学研究室では、1人の先生の指導だけを受けるというよりも、全ての先生から言語学の様々な分野について学ぶ方針をとっています。週に1度、研究室の教員・大学院が全員出席し、1人の大学院生の発表について議論する「大学院演習」という授業があります。

西村義樹 教授 認知言語学、意味論。英語、日本語などの文法。

小林正人 教授 歴史言語学、音韻論。インド・アリア語を始めとする印欧語族およびドラヴィダ語族の言語の文献学的研究およびフィールドワークによる言語記述、それに基づいた比較再建。

長屋尚典 准教授 オーストロネシア語族、とくにフィリピンやインドネシアの言語についてフィールドワークに基づくデータを使用しながら、言語類型論および構文文法の観点から、その文法構造について研究しています。最近では実験やコーパスを用いた研究に興味もあります。

石塚政行 助教 ヨーロッパのバスク地方で話されているバスク語の文法を、それがどのような意味を表しているのか、どういう機能を果たしているのかという観点から記述・分析しています。

修士修了者の就職状況

半数程度が博士課程に進学し、半数程度が就職します。就職先は公務員、学校教員、翻訳会社、日本語教師、民間企業などさまざまです。

博士課程修了者は他大学や研究所のポスドク研究員、任期付きの大学教員に就任することが一般的です。非常勤講師のかけもちや研究以外の仕事で生計を立てている人もいます。卒業生のうち一部は任期なし・フルタイムの大学教員に就職しています。研究は誰にでも開かれていますが、研究者になっても研究・教育職に就ける人は多くありません。

修士論文に求める水準、内容

2018 年度修士論文題目一覧

- 日本語の自他選択に関わる要因と意図的でない他動詞文
- 印欧語族スラヴ語派における鼻音を含む屈折語尾の通時的变化の研究
- 第二言語から母語への逆転移について—中国人日本語学習者を対象に—
- 限定形容詞を求めて—日本語形容詞の限定用法と叙述用法—
- ケチュア語アヤクーチョ方言の名詞化節内における示差的格標示—「対比性」の観点から—

『東京大学言語学論集』に毎年の修士論文の概要が掲載されています。最新号は東京大学学術機関レポジトリ ([こちら](#)) から見ることができます。

最近の研究室による研究公開活動

- 2019 年 5 月 31 日 Foong Ha YAP (Chinese University of Hong Kong, Shenzhen) “Typological and Discourse Approaches to Attitudinal Indexicals”
- 2019 年 11 月 2 日 Shun Nakamoto (UNAM) “What is a word in Ayautla Mazatec?: Morphosyntax and prosody”
- 2019 年 11 月 11 日 Dr. David Nelson “Reconstruction of the Early Indo-Iranian Society : Evidence from the Hindu Kush”
- 2019 年 12 月 22 日 Hiroto Uchihara (UNAM) “Tlapanec (Mè'phàà) verbal inflection at the phonology-morphology interface”
- 2020 年 1 月 30 日 Ryo Umeda (University of Helsinki) “Introduction to North Saami Morphophonology”
- 2020 年 2 月 22 日 中川奈津子 (国立国語研究所) 「ハ、ガ、φ (ゼロ) : 日本語話しことばにおける助詞」

その他

研究室ホームページ : <http://www.gengo.l.u-tokyo.ac.jp>

推薦図書 : 『明解言語学辞典』(三省堂)、『言語学の教室—哲学者と学ぶ認知言語学—』(中公新書)

日本言語学会の夏期講座や、東京言語研究所で言語学を学ぶことができます。